

平成30年度第8回社会教育委員の会議

平成31年3月8日(金)

午後6時00分開会

開催日時	平成31年3月8日	開会18時00分 閉会19時25分	
場 所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出席委員	議 長 小山田佳代 副 議 長 原田 隆司 委 員 首藤 由憲 委 員 石田 静子	委 員 城 瑞枝 委 員 長坂 寛 委 員 柴田彩千子 委 員 福井 高雄	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 藤本 裕 生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 内田 雄介	図書館長 菊池 幸子 公民館長 西村 直邦	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子		
傍聴者人数	2名		

日程	議 題	
第 1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 会議録の承認について</li> <li>(2) 小金井市の地域学校協働活動について</li> <li>(3) 平成31年度管外視察研修について</li> <li>(4) 平成31年度三者懇談会について</li> <li>(5) 平成31年度放課後子どもプラン事業に係る運営委員の推薦について</li> <li>(6) 生涯学習センター機能（ホームページ関連）について</li> <li>(7) その他</li> </ul>
第 2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について</li> <li>(2) その他</li> </ul>

小山田議長        それでは、定刻になりましたので、始めたいと思います。どうも皆様、お忙しいところ、今日は夜の会議ですけれども、ありがとうございます。

      では、ただいまより、30年度第8回社会教育委員の会議を始めたいと思います。

      まず最初に、配付資料の説明ということで、事務局のほうからお願いいたします。

小堀生涯学習係長    では、本日の資料を説明します。

      まず、次第です。次に、平成30年度第7回社会教育委員の会議会議録。資料1、「小金井市での地域学校協働活動」の実現に向けて。これは2枚あります。資料2、各小学校における学校ボランティアの活動状況について（平成29年度実績）。資料3、小金井市社会教育委員の会議管外視察研修。資料4、三者懇談会におけるこれまでの実施内容について。資料5、平成31年度社会教育委員の会議等日程表。

      あとは、委員の方だけですけれども、社教情報ナンバー80。社連協会報ナンバー84。とうきょうの地域教育ナンバー135。図書館だより第50号。小金井月刊こうみんかんナンバー491。

      以上です。

小山田議長        ありがとうございます。もし何か不足のものがある方がいらっしゃいましたら、事務局のほうに申し出てください。

      では、本日の議題になりますが、6つほどありますので、進めていきたいと思います。

      はい。では、最初の議題で、会議録のご承認のことです。メールのほうにも送られておりまして、お手元の資料にもございますが、何かご意見、修正等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

      特にないようでしたら、こちらの会議録は承認ということでしょうか。

      では、承認ということで、ありがとうございます。

      では、続きまして、小金井市の地域学校協働活動についてになります。

      こちらは資料1になります。前回の小委員会の検討等も含めまして、また素案ということで、私のほうで上げてみました。その中で、

先に皆さんにメールでお送りしておりました、本日お配りしたものには、委員の方からのご意見というのが入っておりますが、これはまだ最終ではないので、ほんとうにたたき台のたたき台という感じなんですけれども、方向性とか、あと、これはもう少し入れたほうがいいんじゃないかというようなご意見がございましたらいただきまして、精査して、次回にもまたお出しするという形になると思います。ちょっと目を通していただきまして、ご意見いただければと思いますので、何かございましたらお願いいたします。

原田副議長

中身の部分に入る前に、全体の提言の構成として、私としてはこれで適当ではないかと考えました。

まず、「はじめに」というところで、この提言に至るまで、社会教育委員の会議でどういう検討をしてきたか、あるいは実際の視察なども含めてどういうことをしてきたか、それを踏まえてこの提言に至ったということがよくわかるように書いてあると思います。

そして、その次は、そもそも地域学校協働活動はどうして必要なのかということもまとめて書かれております。

2ページ目に入りまして、3つ目の項目は、地域学校協働活動は、子どもたちにとってはもちろんだけれども、地域の大人のための教育の場となる、ひいてはコミュニティづくりに発展するという広い展開が期待されるということが書かれていると思います。

4番目の「行政に求める役割について」、ここがこの提言のみそであるかと思いますが、これまで議論してきた項目を絞って、広報から人づくりの問題、それから、お金の問題、担当する部署の問題など、網羅して書かれているかと思います。ここが、これからよりわかりやすく教育委員会のほうに通じるようにまとめ上げていくというのがみそなのかなと考えました。

それから、5番目、「最後に」と書いてありますが、今後の展開ということかなと理解いたしまして、まとめという意味ではなくて、今後、こういうふうな発展、展開していけばいいということを最後に書くということによろしいのかなと思いました。

内容に入るところでは1点だけ。4番の中の4つ目のところで、これは学校教育部と子ども家庭部、そして生涯学習部が連携してやるべしということだと思っておりますが、生涯学習部が書いてないので、ここは並列して、生涯学習部、学校教育部、子ども家庭部が連携し

てやるということをはっきり明示したほうがいいのかなと思いましたが。

以上であります。

小山田議長 補足をいただきまして、ありがとうございます。  
はい。

石田委員 石田です。指導室や子ども家庭部や児童青少年課、その次に生涯学習ということですか。

我々、社会教育委員の会議の提言ですから、生涯学習部がまずあって、それから、指導室というのは学校教育部の課ですから、部の名前で学校教育部、そして子ども家庭部としたらどうかなと思いましたが。

石田委員 わかりました。

小山田議長 では、長坂委員、お願いします。

長坂委員 長坂です。これを読ませていただいて、大変素晴らしいと思うんですけども、いつまで、どういう形でということがないんです。これだったら、ただ言いつ放し、聞きつ放しで終わるかもわからない。そういうルーズなことはないと思いますけれども、こういうものに対しては、いつごろまでとか、どういう形でとか、そういうものを、やはり希望があればあらわしていたほうがビジネス的にはいいと思いますので、ご検討ください。

原田副議長 今、先生ご指摘のとおりだと私も思います。4の行政に求める役割のところ、地域学校協働本部の立ち上げ実現までのスケジュールを立てて、準備会を設立するということがありますので、この部分、具体的にいつまでとかということを入れるかどうかということですね。ということになるかと思えます。

小山田議長 そうですね。そこに、いつごろまでということを入れるかということになるかと思えます。そのあたりはこれからですね。今日すぐに決められないかもしれないんですけども、いつごろまでという

具体的な期日というか、いつごろというのを入れるかということですね。

福井委員 直近の小委員会では、いつ提言するかということと、あと、提言書の相手先というところも検討はしたんですよ。当初、私の提案としては、西岡市長と教育長に出したほうがいいんじゃないかという個人的な意見を出したんですけれども、とりあえず提言書としては教育長に提出しましょうということで、今回の相手先は教育長の名前が記載されているというのと、あと、我々の今期の任期が9月で終わるということで、この後また今後のスケジュールの会議の日程表は説明されると思うんですけれども、最後の2つ前ぐらいまでに提言書を提出しましょうと小委員会で決まっているということなんですけれども、次回以降の委員会で提言しましょうということを決定するというところまでは話し合っておりました。

小山田議長 ありがとうございます。あと、今日は年度の最後ということですので、これまで、この1年を振り返ってということと、来年度こんなことを検討しなくてはいけないというようなことで、少し意見交換できたらとは思っております。今、いろいろご意見をいただいておりますが、あとは何か、もしございましたら。

柴田委員 2枚目の資料で、新たな担当課をつくることを要求するというのを先日の小委員会でも話し合ったんですけれども、確認ですけれども、これは、イメージとしては生涯学習課の中に担当部署をつくるということで、課をつくるという理解ではなくて、その中の担当部署をつくるという理解だったんですけれども、いかがでしょうか。

小山田議長 そうですね。いきなりまた別の課をつくるというのも、ちょっとハードルが高いかと思しますので、生涯学習部の中に担当ということで、地域学校協働活動を推進してくださるような、推進する担当の係というか、部署というか、そういうものをつくっていただけたらというような書き振りに再構成したいと思います。

福井委員 今の項目と全く同じなんですけれども、私の意見としては、今回の傍線のところは、私が委員として事務局のほうに提言しまして、

付け加えていただいたんですけれども、さらにもう一言言うと、今の文章の新たな担当課というところに、事業としての予算化もするというところも、小委員会では1回、委員としては提言しております。したがって、今回の提言の意見としては、残念ながら傍線のところプラス予算化というところが、事務局としてはちょっとハードルが高くて、今の提言の段階では時期尚早かなというところで割愛されたというような意味合いで個人的にはとったんですけれども、今言うような、担当課までは積極的な話じゃなくて、新たな組織をつくっていこうというようなところぐらいで終わったんじゃないかとは思っております。

小山田議長       ありがとうございます。予算化につきましては、少しは触れておいたほうがよろしいのでしょうか。

原田副議長       ちょっとよろしいですか。これは小堀さんに教えていただきたいんですが、新たな担当が生涯学習部のどこかの係にできたとして、新しい仕事をするんだから、予算は必然的に獲得してくると思ってよろしいのでしょうか。

小堀生涯学習係長   新しい事業ができるというところであれば、基本的にはそれに係る経費は予算化されていくかと思います。ただ、まだ話がそこまで進んでいない段階なので、例えばコーディネーターさんの謝礼の分を確保するのかとか、もうちょっと先の協力者の方、ボランティアの方の分のお金がどうなるのか、そのあたりまで今はっきりと言えるところはないんですけれども、ただ、何か新しい事業をするとなれば、全く予算を伴わないということはないと思います。

藤本生涯学習部長   私からも補足すると、課ができるから予算がつくのではなくて、事業に対してということなので、今後、組織改正というところも入ってきますので、新たな部署となると、やっぱり組織も変えていかなくちゃならないということになりますので、そういう組織も含めて考える中で、事業も含めて考えていくようなことだろうなと思っております。

小山田議長       ありがとうございます。やっぱり、この欄も少し書き方を変え

て、組織の改編というか、含めて、予算的なことも触れつつ、生涯学習部内にとこのようなことを少し盛り込んで、また書き直してみたいと思います。

あとはいかがでしょうか。まだ何回かは検討したいと思いますので、方向性としては一応この方向性で行くということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。細かい文言ですとか、そのあたりも、皆さん、一度読んでいただいて、また次回に何かございましたらということで、持ち越していきたいと思います。時期的には、ほんとうに、私どもの期が終わる前に提出できるようにということで進めていきたいと思っておりますので、また来年度に入ってから検討のほう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

藤本生涯学習部長 議長、済みません。本日、今まだ議会中で教育長がいないんですけれども、この地域学校連携活動についてもお話ししたいようなこともございましたので、後でもし間に合いましたら、そのところでちょっとご意見をいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

小山田議長 ありがとうございます。では、教育長のご意見もいただけたらと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、次に行きたいと思ひます。

続きまして、平成31年度の管外視察研修についてということで、毎年管外研修に行っておりますが、来年度、それもまだ、今日決定するということではございませんが、資料3になります。前回行けなかったけれども、地域学校協働本部として活動の小・中学校の視察候補先が書かれていますが、この資料はそういうことによろしいでしょうか。

小堀生涯学習係長 資料3は福井委員が「とうきょうの地域教育」等を参考にしてつくってくださったので、もし福井委員からご説明があればお願ひします。

福井委員 資料2は事務局のほうでつくっていただいて、資料3に関しまして、管外視察ということで、皆さんが、フリートーキングしている

と、今日の時間内にまとまりにくいなということで、一番下に書いています参照の「とうきょうの地域教育」のパンフレットの3部から項目別に学校名を拾ったということです。地域学校協働本部として、東京都区内において活動している小学校、中学校を項目別に学校名を拾ったという一覧表です。基本的には、授業援助から始まったこういう項目を各小学校が積極的に現時点で活動しているところと、もう一つは、同じように、授業援助から地域連携協働教育等を含めまして、都区内、市内の中学校がやっているということです。

これに基づいて、我々の平成31年度の管外視察研修という提案をしたいと思うんですけども、基本的に、詳細は別として、ちょうど中段の、小学校の土曜日、夏季の教育支援というところで、清瀬市立第三小学校と書いてあるんですが、「とうきょうの地域教育」のパンフレット以外にも、この清瀬市立第三小学校は非常に積極的に記載されているのが目についたのと、あと、品川のほうも積極的に取り入れていると思います。地域的には墨田区が、教育委員会も含めまして、この地域学校協働本部というものを取り上げているということで、できたら、視察研修としたら、当然、午前午後で2カ所ぐらいは行きたいと思うんですけども、例えば午前中に小学校の視察ということは、普通授業がやっているものですから、非常に難しいと思います。したがって、例えば地域本部の立ち上げた、コーディネーターさん、教育長を含めた、意見交換会をするようなところを午前中、午後から授業等のサポートをしているところが視察できればというような検討していただければと思います。

清瀬市でいくと、そういうモデルパターンに近いようなところで、小山田委員と一緒に東京都の生涯学習の審議会をやっている清瀬市の坂田教育長という方がおられますし、先にそういう意見交換会をして、午後は清瀬第三小学校を見に行くとか、あと、都区内だったら墨田区と品川区を見るとか、そういう取り上げ方があるということで、網羅している以外にも、皆様のご意見で視察先というのは当然出てくると思いますし、午前午後の視察の相手先の時間の都合もございますから、細かくは確認しにくいんですけども、こういう広報として、参考資料として視察の相手校ということで網羅したという表です。

小山田議長       ありがとうございます。資料2が抜けておりましたが、事務局のほうで、小金井市内の小学校のボランティアの活動状況というのを調べていただいた表になっております。なので、小金井市も各学校ではいろいろな活動をされているということは事実としてあるとわかったということで、また見ておいていただけたらと思います。

石田委員       管外視察もいいんですが、身近なところで、東小が私たちの考え方に近いような活動をしていたということをここで初めて知ったんですね。ですので、外に行くのも1つだと思うんですが、東小の地域の人たちの支援状況とか、いろいろ学校に協力している状況、東小について一度お話を伺うということも、身近なところでいかなもののでしょうか。

小山田議長       今、石田委員から東小という意見が出たんですが、実は次の議題にもなるんですが、平成31年度の三者懇談会というのが、来年度は社会教育委員の会議の担当ということで、私どものほうで企画をします。それについても何がいかというのがありまして、懇談会のほうは予算がないということで、あまり外部講師が呼べないみたいな話も実はありまして、もしかしたら、東小の方とかだったら、三者懇談会のほうに来ていただいて、皆さんと一緒に話すというのもよいのかなとふと思いましたので、次の議題なんですけど、一応、三者懇談会もありますということで、そのあたりもうまくすみ分けができたらとは思っています。

小堀生涯学習係長   資料4に少し触れられたので、ちょっと訂正をお願いしたいのですが、平成30年度一番下なんですけれども、岩間恵子氏のところが三鷹市立西部図書館主査と書いてあるんですけれども、西部図書館長が正しい肩書きでした。

それと、視察研修については、資料5のほうに今後の会議の日程が書いてあるんですけれども、昨年と同じスケジュール感でいくと、第3回の社会教育委員の会議をそれに充てる感じになるかなと思うんですが、もし、例えば7月とか、早まって6月ぐらいに研修に行きたいということになると、4月中とか5月の初めには場所を決定しないとイケない状況となります。先ほど福井委員から、できれば2カ所行きたいというお話がありまして、せっかくの研修なので2

カ所というところはあるんですけども、どうしてもこの学校に行きたいというところがあって、そこで日にちが決まってしまうと、その日に合わせてほかを探すことはなかなか難しく、いずれかのタイミングである程度候補先を絞っていただいて、あとは第1候補からこちらでアプローチさせてもらって、日程が合うところを探していきたいと思っています。

小山田議長       ありがとうございます。管外視察研修、今、福井委員からのご意見が上がっているんですが、ほかにも行きたいということがありましたら、自由に出していただければと思います。時期的なものは、やはり第3回の社会教育委員の会議をこの視察に充てて、この前後で行くような感じになるのかなとは思うんですけども。地域学校協働本部の話は今いろいろ進めているので、視察候補先と出ていますが、もしもっと違うところに行きたいということがあれば、今であれば意見はいろいろ出していただけたと思いますので、今日はほんとうに意見だけ伺いたいと思います。ただ、決めるのは4月に入ってからすぐに決めないと、調整が厳しくなるということですよ。

小堀生涯学習係長   そうですね。ただ、今回初めて会議の議題としてお出ししているので、今日決めてくださいということではありませんが、4月の会議ではある程度絞り込みをできたほうがいいと思います。

小山田議長       何か、ここに行きたいとか、こういったところも視察に行きたいみたいなご意見がもしございましたら、上げていただければと思いますが、いかがでしょうか。

城委員           近いところで、もちろん東小も大切ですけども、武蔵野市立の関前南小学校、ここも小金井市にとっても近いので、近いところではどんなふうに行っているかを知りたいと思いました。

小山田議長       ありがとうございます。まだ漠然とした感じかとは思うんですけども。

原田副議長       視察先として、まず、地域学校協働本部があり、実際に活動している学校に行くというのは賛成です。時期的に言うと、我々の提言

はできているところかもしれませんが、提言しておしまいじゃなくて、これからもずっと議論を続けていく課題となろうかと思っておりますので、なるべく幅広く実態を見ていくという意味では、今回の研修も地域学校協働本部を実際に見るとというのがよろしいかと思っております。

その中で、例えば地域と連携をしていますよというのはどういうところかというのは、ちょっと見てみたいなという思いがしますので、そういう学校で目をつけると、ここにあるのは府中の小学校と中学校、2つありますので、そういう項目で選ぶという方法もあるのかなという気がいたします。

石田委員           あと、狛江市の狛江第五小、狛江市の教育委員会とは、科学の祭典を通じて、狛江市の教育委員長に私たちはお会いしたこともありますので、意外と小金井市に対して好意的ではないかと思っております。

小山田議長           では、一応、地域学校協働本部として活動している実践先に行くという方向、今それだけしか出ていないんですが、まず、それがいいかということと、全く違うところに行くというのもあるかと思っておりますので、そのあたりは皆様いかがでしょうか

首藤委員           出席が遅れ、提言書の議論に参加できず申し訳ありませんでした。その際に意見としていうべき内容でもありますが、そこで言っている方向性と、行く学校の関連みたいなものの絞り込みをもう少し関連づけて整理すればよいのではと考えます。例えば提言書の中にある「教育のまち小金井市」みたいな表現になっているんですが、「教育のまち小金井市」というのは学習支援という方向なのか、もうちょっと広い範囲で教育というものを捉えているのか明確にさせ、もし学習支援という方向に近いのであれば、その方向に近い活動をしている学校を視察した方がよいと思います。

小山田議長           そうですね。私のほうで書きました「教育のまち小金井」というのは、別に学習支援というよりかは、小金井の子どもたちをどうすればいいかというのをみんなで考えられるようなまちというか、かなり広義なイメージで書いたんですけども。

首藤委員           その辺をもう少し明確にした方がよいとは私は思います。提言書

の前文にある大学の人たちと協力して盛り上げるとかという話ですと、少し学習支援寄りのほうに近いのかなと感じました。もともと小金井市は学園都市のイメージがあります。エリアと教育というような概念的な表現でまとめてしまうと、方向性が曖昧になるようにも思います。個人的には学習支援を軸に置くような考え方もあるのではないかと思います。もう少し教育の内容・方向性を明確に出来れば、おのずと訪問する学校は決まるのではないかと思います。原田さんのご意見にも同様の内容があった様にも思えるのですがどうですか。

原田副議長 名前が出たので発言させていただきます。学習支援というと、子どもたちの学習を進めていくためにお手伝いするというイメージですよね。

首藤委員 そうですね。

原田副議長 これまでのこの会議での議論は、もちろん子どもをよりよく育ててもらおうという大きな目的があるけれども、逆に大人がかかわることで、あるいは地域がかかわることで、大人も育てられるというか、生きがいを持っていく、地域のコミュニティとしての力もできると捉えてはどうかと。それができて初めて、子どもも地域の子どもとして新しい育ち方をするのではないかという議論をしていたと思うんですよね。そういう意味では、学習支援というのは大事なことだけれども、少し絞り過ぎちゃっているかなと思ひまして、むしろ、さっき私が言った、地域と連携してやっている教育活動って一体、具体的にどういうことなのかなと、そこに關心を持ったほうがいいのかと思ったわけなんですけど、いかがでしょうか。

首藤委員 そうは思うんですけど、そうだとすると、逆に今度は広がり過ぎて、エリアと教育みたいな話になっていくんですよね。そうすると、エリア特性というのをどういうふうにもうちょっと絞り込んでいくのかというのを整理していかないと、ちょっと漠然とし過ぎているのかなとも思うんです。おっしゃるように、学習支援に特化し過ぎるとそれはどうなのかなという意見は当然あるとは思いますが。

原田副議長 議長が教育の町って掲げた趣旨を確認したいんですけど。

小山田議長 先ほども申し上げましたとおり、学習支援というだけではなくて、それこそ社会教育という観点から、子どももですけど大人もという、生涯学習全体の意味の教育ということで考えておりました、小委員会のほうでも、地域学校協働本部の活動、最後はコミュニティスクールに向けてというのは、もちろん子どもたちの育ちが第一にはなるんですが、それを通して大人も学んでいくという、大人のほうの学びというのも、それこそ小金井ならではの、そこに特徴というか特性みたいなことで持っていったらいいんじゃないかという意見も小委員会に出てきていたので、広がってしまうんですが、地域の大人も、逆に子供たちと一緒に学んでいくといった教育という観点的意味で書いたということでございます。

福井委員 原田委員、小山田議長が言われたとおりの話なんですけれども、私も首藤委員が質問されているような一方的な教育支援というのではなくて、双方向というか、学校、地域及び企業含めたグループと、あと、地域の団体、町会等を含めたところが全体的な教育じゃなくて幅広い分野で、全体的にいくと社会教育という言葉につながると思うんですけども、それを支援するという方向性が1つあると思うのと、逆に、子どもが地域の方に支援するという方向性の社会教育があるということなんです。

この辺の分野は柴田委員が非常に専門家ですから、先日も公民館の貫井北センターで自主講座ということで、ご講義いただいた経緯もあるんですけども、双方向でお互いに、子どもだけが受ける社会教育の勉強というのではなくて、地域にまた還元するというのも、この地域学校協働活動という大きな目的の趣旨につながってくるということで私は理解しているということです。ちょっとフォローできましたら、柴田委員にお願いしたいと思います。

柴田委員 今の福井委員や小山田委員の考え方、原田委員もおっしゃっていましたが、学校支援というところにとどまらずに、市民も一緒に学んで成長していくというイメージでの提言を、今回、私たちがまとめました。例えば、この管外視察でいえば、福井委員がまと

めてくださった資料の中に、立川市立の小学校、中学校とあるんですが、立川市も小金井市と同じように、今、コミュニティスクールが少ないんですが、もう全校をコミュニティスクール化していくという方針にかじを切り出したところです。立川市の場合は、市民の方たちも巻き込んで、学校の中で立川市民科という新しい試みをこれから進めていくというところで注目を集めていますので、そういったところで市民と学校がどういうウイン・ウインの関係性を築いて子どもたちを育てていくのかを見るという意味では、管外視察として立川市の小学校と中学校があるのかなと思います。また、住民と学校とのウイン・ウインの関係というところでは、もともとコミュニティスクールを新しいタイプの学校として構成するに当たって、文科省が全国9校の実践校を選定して研究を進めたもう皆さんはご存じだと思いますが千葉県習志野市立秋津小学校の事例を改めて見てもおもしろいのかなと思います。

小山田議長      ありがとうございます。柴田委員から立川市と習志野市の学校のご紹介ということで推薦いただいたというところがございます、とりあえずあれですかね、やはり地域学校協働本部ですとか、コミュニティスクールに向けてというところでの、私どもの提言に沿ったところに視察に行くという方向は、ご賛同いただけるということでしょうか。もし全く違うところに行きたいということがあれば、今日のうちに言っていただけたらと思うんですが、その方向でよろしいですか。

石田委員      いいと思います。

小山田議長      じゃあ、方向としてはその方向ということで、私どもの提言に沿うような、お手本になるような事例がある学校を視察に行くということで。今、柴田委員から立川と習志野と出たんですが、その方向で、ほかにもそういった学校がないかということで、学校、地域、住民ということでのウイン・ウインな関係でやっている事例を皆さんに探していただいて、また次回、それを持ち寄るということで。それまでにもし候補があれば事務局にメールとかで出していきたいと思います。

小堀生涯学習係長　そうですね、できれば、候補があれば先に教えておいて、4月の本会議の前に小委員会を1回開いて、そこでちょっとまとめられたらいいと思います。

原田副議長　おそらく相手の都合があるので、1回で決まるということはないですね。だから、去年もそうだと思いますが、第1候補はこことか、幾つか候補をつくって順に決めていくみたいなことをやったらどうかと思います。

小山田議長　ありがとうございます。では、福井委員がたくさん学校を挙げていただいたので、この中でもあるかもしれませんし、また、ほかにもそういった方向性のある学校があれば幾つか挙げていただいて、もしありましたら事務局に先にメール等をいただいて、4月の本委員会の前に小委員会を開きますので、そこである程度絞り込ませていただいて、4月22日の委員会で何校かを決定するというスケジュールで行きたいと思いますがよろしいでしょうか。

では、皆様、宿題でございますが、よろしく願いいたします。

続きまして、平成31年度の三者懇談会についてということで、ちょっと先ほど触れたんですが、資料4になります。これまでのテーマが内容ということで上がっております。平成31年度はまた社会教育委員の会議が担当ということですが、予算がない中で、どういったテーマでやっていくかということですが、先ほど事務局のほうに伺うと、日程は例年5月ごろにしているということで、そうすると、もう4月の本会議のときにはそれこそ決定していないと間に合わないぐらいかなと思うんですけども。

こちら今日すぐ決められないと思うんですが、さっきちょっと東小の話も出ましたが、それこそ身近なところの方々をお招きして、今回は図書館と公民館の運営審議会の方もいらっしゃるということで、皆さんがどう思われるかいろいろお話を伺ってみることはできるかと思うんですけども。でも、またこの方向の話ばかりになっているので、逆にちょっと違うテーマを入れてみてはどうかというのはあるかと思うんですが、そのあたりは皆様から何かありますでしょうか。

石田委員　この間、私は仕事があって途中から聞いたんですが、福井さんた

ちが主催する会で柴田委員が発表してくださって、資料もすごくよくまとめてあったのですが、その説明をお願いしてもいいですか。

福井委員 公民館の主催事業で、貫井北センターで自主講座を2回開催しました。第1回目は長坂教授に、今回の文科省の組織編成に関してということでご説明いただいたのと、2回目は、柴田講師という肩書きで来ていただいて、先ほど首藤委員の質問に対する私の意見ということで説明したとおりで、子どもに対して地域の人及び企業、大学関係の学生含めて、どういう関係で協力体制で持っていけるかというのは、文科省及び社会福祉をつなぐ関係で、地域の活性化ということを文科省が非常に力を入れている分野だということで、柴田委員にご講義いただいたきました。このあと、貫井北センターの分館長より、現状の活動状況を説明していただいて、その後、グループ討議ということで、第2回目の取り組みに対する意見ということで発表していただきました。やはり一方通行でやるのではなくて、まち全体で活性化していくというのが最終目標じゃないかということで、社会教育というかたい言葉なんですけれども、1つずつステップを踏みながらやっていこうじゃないかという内容だったと思います。石田委員も私と一緒に受講者という立場で講義を受けたという内容です。

小山田議長 ありがとうございます。ということでございますが、柴田委員、いかがでしょうか。

石田委員 柴田委員に突然振っております。

原田副議長 三者懇談会は、時間は2時間ぐらいでしたか。

小堀生涯学習係長 そうですね、懇談会なので、取り決めはないんですけど、おおむねいつも2時間以内に終わっています。

原田副議長 今、福井さんがおっしゃっていたように、基調のお話があって、それを受けてみんなでディスカッションするというのがいいと思うんです。そのテーマも我々もここで議論してきた地域学校協働活動を進めていく上には、公民館や図書館のお力をいただかなきゃい

けない、それぞれの審議委員の方々の知恵をいただくこともできると思うんです。そういう意味では、グループディスカッションをやってそれぞれのグループで発表するという方向がいいのかなと。あとは、柴田先生のご決断というか、あるいは、さっきお話が出たように、実際に活動している東小学校の方に具体的にこうやっていまずよという話をしていただくのがいいのか、あるいは両方かということで、先生、いかがでしょうか。

小山田議長 先生、ご意見をお願いします。

柴田委員 先日のその公民館での話なんですけれども、先ほどの提言書とも重なるところもありまして、話の中では、学校支援を行う大人の方たちも、単なる支援者ではなくて学習者だということを強調したかったんです。その成人の方たちの学びを保障する上で、担当部署を設定しましょうという提言があったんですが、そこで学習者の方を支える職員さんのスタンスというところをお話しさせていただきました。ですので、今回、もし三者懇談会でこのようなテーマを扱うならば、そういったところを公運審の方と図書館の方たちと共有できる機会かなと思いますし、また、東小のコーディネーターさんのお話を聞くのも私にとってはとても楽しみな機会ですので、私だけの話ではなくて、ぜひ東小の方にも来ていただいて、例えば、2本立てで前半進めて、後半はみんなでディスカッションというのはいかがでしょうか。

小山田議長 ちょっと東小のコーディネーターのご意見も伺ってみなくてもいけないと思うんですけれども。

小堀生涯学習係長 今の段階では、引き受けてくださるともくださらないとも言えないんですけど、ただ、今、このような流れで話が進んでいるということはある程度お伝えしているので、必要があればお願いしてみます。

小山田議長 何か具体的に企画もできてしまったような感じなんですけど、柴田先生のお話と、もしお引き受けいただけるようであれば東小のコーディネーターさんに来ていただいて、実際のお話と公民館や図書館

と一緒に支えていくというところでの皆様のご意見を伺うような会にするという方向が今出たんですけれども、いかがでしょうか。それでよろしいですか。具体的にはまだあれですが、一応その方向で、実際、東小のほうにも聞いていただき、もしかしたら都合がつかない等の可能性もありますが、その方向でいきましょうか4月にまた会議がありますけれども。柴田委員は、もしそういった場合はお引き受けいただけるでしょうか。

柴田委員           はい、わかりました。  
                          済みません、日程はもう決まっているのでしょうか。

小山田議長        まだですね。5月ごろというぐらいですね。

小堀生涯学習係長   はい。

小山田議長        では、皆様がよろしければ、その方向で打診等を事務局のほうから東小のコーディネーターさんにしていただきつつ、もしだめだったら、また違うことを考えなくてはいけないと思いますので、その方向性でよろしいですか。小委員会のほうでまた具体的にもうちょっと詰められたらと思いますので、よろしく願いいたします。もしほかに何か違う方向があれば、今のうちに言っていただけたらと思いますが、よろしいですか。

                          では、三者懇談会につきましては、その方向性で進めるということでもよろしく願いいたします。

                          では、次の議題になります。平成31年度放課後子どもプラン事業に係る運営委員の推薦についてということで、こちらが今、石原委員をお願いしていますが、事務局からご説明をお願いします。

小堀生涯学習係長   平成31年度放課後子どもプラン事業に係る運営委員の推薦についてという依頼が来ておまして、こちらの放課後子どもプランの運営委員さんは1年任期になっております。先ほど話がありましたけど、今は石原委員が出向という形で出席いただいているんですが、また来年度に向けて委員の推薦をしなければいけないということで議題になっております。会議はこちらは年に6回、偶数月が予定されております。内容については、放課後子ども教室とか、放課

後の子どもに関してのいろいろなことを話し合う会議になっております。

小山田議長       それで、私どもの任期が9月になってしまうので、この放課後子どもプランの委員のほうも一旦9月の段階で、もしかしたら、こちらとしては違う方にかわる可能性はあるんですけども、4月からとりあえず9月までは任期なので、もしどなたか来年度やってみたいという方がいらっしゃいましたらお願いできたらと思うんですが。放課後子ども教室のお話が出ておりまして、それぞれのコーディネーターさんからのお話とかも聞けるという内容になっております。

もしどなたかいらっしゃらないということであれば、一応石原委員のほうは継続で続けてもいいとはおっしゃってくださっているということなんですけれども。

石田委員       続けてくれるなら。

小山田議長       ひとまず、9月で一旦私どもの任期は終わるので、また委員が交代する可能性もありますので、そこでまた後期はもしかしたらかわる可能性はあるということ。なので、このまま継続いただくというのもよいかと思うんですが。でも、もしやってみたいという方がいらっしゃればあれなんですけれども。

長坂委員       いいんじゃないですか。

小山田議長       じゃあ、ひとまず石原委員に継続していただくということで。  
では、その次になります。生涯学習センター機能（ホームページ関連）についてということで、今期、私どもの始まったところで、前の期からの継続の事項だったんですが、ホームページをどういった体裁でやったらいいかということもかなり話はしておりまして、ちょうど市民団体等の登録の時期だったということもあって、ホームページに載せてもいいかとか、項目等も考えて、一応皆さんに送って返ってきたということなんですけれども、その後、こちらの委員会でも議題に出ていなかったのもので、年度末ということで、一応進捗状況を確認させていただけたらと思うんで

すが、事務局からお願いします。

小堀生涯学習係長 生涯学習センター機能（ホームページ関連）についてということで、昨年度いろいろ話し合いをしていただいて、本来であれば、年度始まってすぐに取り組みたいと思っていたんですけれども、いろいろな事情がありましてなかなかこちらまで作業を進めることができておりませんでした。遅くなりましたが、今年度中にはこちらを完成させるつもりではおりますので、年度内にホームページに生涯学習の項目をつくるということで伝えさせていただきます。

原田副議長 前年度、この会議で議論して、最終的には非常に具体的な設計図までつくっていただいて、あとはもう作業に入ればでき上がりというところまでせっかく来ていたものですから、いつ載るんだろうかとずっと待っていたんですけれども、今おっしゃったように、ぜひ今年度中に実現をしていただきたいとお願いいたします。

藤本生涯学習部長 大変遅れて申しわけございません。ホームページのほうは今年度中に取りかかるように指示しますので、よろしくお願いします。

小山田議長 年度末、ご多忙とは存じますが、何卒よろしくお願ひしたいと思います。また、アップされましたら、私どものほうにメールをいただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

続きまして、その他ということで、ほかに何か議題はございますでしょうか。

長坂委員 藤本部長にお伺ひしたいんですけれども、昨年の10月1日に、小金井では、「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す」ということで、小金井市の条例が施行されています。これについて、どういう趣旨でつくられているのか、その内容と、生涯学習とのかかわり合いと、それから、最後は、やはりこの社会教育委員の会議の役割、その辺について、やはりこの委員会そのものの存在というか、役割等が非常に重要になると思うので、ご説明いただければと思います。前回、社会教育士のことでお伺ひしたんですけど、議事録にありましたが、全然回答になっていないんです。ここで私がお伺ひしたことは、僕は非常に重要だと思ってお伺ひしたん

だけど、そういうことではこの会そのものの存在価値というか、意味がないと思うので、今のことも関連してご説明いただけるとありがたいです。時間がなければ、また改めていただいても結構です。できたら、きちっとした。もう10月に施行されているわけですが、少なくともそれ以降の機会があったけれども、説明もないわけですよ。だから、全然関係のないことかと思っちゃうわけです。だけど、やはり市長の施政方針で言って決まったことですから、全部こういう仕事に関係があると思うんです。それにもかかわらず、そういうことが全然議論されていないということは、勝手にそれぞれが動いていると思われてもしようがないわけで、我々としては、ある1つのポリシーのために、肉づけするための委員会だと思っておりますけれども、そうでもないと思いますので、その辺のギャップを埋めたいと思っています。それが悪いとかいいとかというのではなくて、そういう方針が出たならば、我々は、その肉づけをするための委員だと私は思っておりますので、その辺を十分お考えの上、ご回答いただければと思います。

藤本生涯学習部長 では、私のほうから。障害者差別解消条例につきましては、今、長坂委員がおっしゃったとおり、10月に施行されております。それで、その条例と社会教育委員の会議との関係、子どもとの関係などいろんなものがありますけれども、次回、その辺のこともまとめてこちらからご説明をしたいと考えておりますので、よろしく願います。

長坂委員 ぜひ願います。

藤本生涯学習部長 はい。

小山田議長 ありがとうございます。では、次回にご回答いただけるということで、よろしく願います。

議題につきましては以上になりますが、よろしいでしょうか。

小堀生涯学習係長 すいません、この間の小委員会のときに、小委員会の委員の方にはお伝えしたんですけれども、社会教育委員の会議の小委員会を傍聴したいというお話がありまして、それをどう考えるかというこ

とを小委員会の席ではご相談させていただきました。その中では、小委員会という言葉を使っているんですけども、準備会のような位置づけで、こちらの本会議をやるための準備をする会というような位置づけではないかと。そのため、そこに傍聴というのはご遠慮いただいたほうがいいんじゃないかというご意見を皆さんからいただいたんですけども、そういう考えでいくか、もしくは、ほかの皆さんで何か別の考えがあるかどうかを伺いたいと思います。

小山田議長　　今のお話は、小委員会を傍聴できないかどうかという意見が市民からあったということで、小委員会では、やはり小委員会自体が社会教育委員の全員の皆さんが参加するというのではない会議なので、そこで話し合われていることが、委員じゃない市民の方が先にそこで一緒に聞くということはどうなのか、ちょっと問題ではないかという話も出まして、あくまでも本委員会の準備の会ということで、外部の方に傍聴いただくのはご遠慮いただいたほうがいいんじゃないかというのが小委員会が出た意見だったんですけども、ほかの委員の皆様のご意見がもしあれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

首藤委員　　おっしゃったように、委員会のための準備委員会ですから、もちろん情報をオープンにしていくということについては異議はないんですが、そういう準備委員会ですから、ここの本会議がオープンになっていけばそれでいいんじゃないのかなと思うんですけども。

城委員　　私も首藤さんのご意見でいいんじゃないかなと。この委員会をするための小委員会だから、この形でいいんじゃないかなと思います。

小山田議長　　一応、小委員会ではない委員の方も今、伺ったんですけども、やはり小委員会の傍聴はご遠慮いただくということで、社会教育委員の会議としてはそういった意見にまとまったということでのよろしいですか。

小山田議長　　そういうことで、小堀さん、事務局のほう、よろしいでしょうか。

小堀生涯学習係長 はい、わかりました。

福井委員 そのほかで、もう一つ、私のほうから質問したいと思うんですけども、5月から元号が変わるということで、昭和、平成、次の新元号という格好になるということで、去年の議会で坂井議員からも西暦表記と元号表記を質問されて、総務部長は適宜わかりやすい表記にしていくと。それと、あと、情報システム課長はデータは西暦で管理していくという回答をされているんですけども、例えば、我々の会議録に関しましては、従来の元号表記ということなんですが、生涯学習部だけでも単独で、先行しながら西暦ありきで、括弧書きに元号というぐらいのイメージで表記していただいたほうがわかりやすいと思いますし、大きくいえば、市民サービスも一環で非常に重要なポイントの位置づけにもなるんじゃないかと思えます。今日のご回答は即云々という非常にハードルが高いと思えますから、当然、去年の6月、7月の議会で坂井議員が質問されたとおり、適宜やっていくようなご回答とデータ管理をしていくという回答もされていることもあるものですから、生涯学習部として、この会議録等も含めまして、西暦表記をぜひお願いしたいと、希望したいと思えます。

それと、間違った言葉で、さらに小金井市の生涯学習部じゃない審議会等の募集におきまして、去年の市報の中に、平成32年とか平成36年という言葉を私は見つけたことがあるんですけども、もう去年の時点で平成36年という言葉を書くこと自体、非常に窓口行政としてはおかしいなと思いましたが、市民サービスの一環としては、西暦表記を第一に希望したいということで、要望として今日提案しておきたいと思えます。よろしくをお願いします。

藤本生涯学習部長 西暦表記の要望ということで、ご意見として伺いますけれども、行政全体的にも考えていかななくてはならないことでもありますので、今後、実際にこれからすぐそういうふうになっていきますので、調整はしてまいりたいと思えます。その中で、こちらの社会教育委員の会議のほうにも報告をさしあげます。

福井委員 はい、お願いします。

小山田議長 よろしくお願いいたします。

では、報告事項に移りたいと思います。事務局のほうから、平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会についてということで、お願いいたします。

小堀生涯学習係長 第2回理事会について報告させていただきます。2月26日に開催されたんですけども、2021年度関東甲信越静社会教育研究大会、東京大会について、まず実行委員会を設置するかどうか、そして、実行委員会を設置した場合は、特別会計の設置をするかどうかということの質問がありまして、こちらはすごく短い期間の回答で、その間に小委員会がございましたので、そちらで皆さんのご意見等を伺いました。大きな大会ですので、実行委員会があったほうがいいんじゃないか、そして、実行委員会があるのであれば、特別会計もあったほうがわかりやすいんじゃないかというご意見をいただいて、それを回答にさせていただきました。他市の回答もおおむね同じような感じで、多分回答までの期間が短かったからだと思うんですけど、回答がなかった市も多かったんですが、おおむね同じような、実行委員会があってもいいんじゃないかという回答が多かったです。そのときには研究大会、東京大会に向けて実行委員会を設置します、そして、予算については特別会計をつくりますということで決まりました。

あと、資料5に記入しましたが、今回の内容等を受けて、年度の最初、第1回の会議よりも前になるんですけども、来月、4月20日土曜日に都市社連協の定期総会が、時間が一応1時始まりということで聞いてはいるんですけども武蔵野公会堂で開催される予定です。こちらにつきましては、詳細の案内が来ましたら、次の会議の前になりますので、またメールでご案内させていただきたいと思います。

理事会の報告は以上です。

小山田議長 ありがとうございます。何かご質問等ございますか。ございませんようでしたら、22日の委員会前に都市社連協定期総会があるということで、ご案内がありましたら、また皆様のご出欠の連絡をいただければと思います。

報告について、その他、何かございますでしょうか。

藤本生涯学習部長 では、すいません。多分もうこのままだと教育長が間に合わないと思いますので、2番目の議題、小金井市の地域学校協働活動についてということで議題がある中で、教育長もある程度前向きに考えているということは聞いております。それで、まだ確定ではないんですけども、来年度については、ある程度モデル校をつくりながら、コミュニティスクールの研究に着手を始めたというところがございますので、その上で、今後、こちらの提言も詰めていかれると思いますけれども、意向としてはそのような意向がある中でということで、1つここのところだけお知りおき願いたいと考えています。

小山田議長 ありがとうございます。かなり前向きなご意見がいただけるということで。

藤本生涯学習部長 ただ、まだ、調整をしないといけないので、ちょっと調整の上、そのような動きで、とにかく研究校をつくって着手していきたいという気持ちがあるということをお伝えさせていただきます。

長坂委員 そういう情報をいただくと、非常に進めやすいわけです。逆にありがたいと思います。揚げ足取るわけじゃないんだから、記録に残っているとか残っていないというよりも、実質的な仕事ができるという意味では大変貴重だと思うんです。でありまして、今後ともひとつよろしくお願いします。

小山田議長 では、私どももあれですね、もう少し早く意見書を出したほうがいいかもしれないという。

石田委員 いいかもしれませんね。

小山田議長 ちょっとスピードアップをまた考えたいと思います。ありがとうございました。ほかにはございませんでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の社会教育委員の会議は終了とさせていただきます。今年度はこれでおしまいということで、小堀さん、すいません、最後、この資料5の日程ですが、こちらだけ

説明をお願いします。

小堀生涯学習係長 最後になりますが、ここに書かれているとおりになすけれども、4月20日都市社連協の定期総会は、メールでご連絡させていただくと思います。4月22日月曜日が第1回社会教育委員の会議、9時半から801会議室、日程は未定ですけれども、三者懇談会が5月ぐらいに入る予定です。第2回社会教育委員の会議、5月20日月曜日9時半から801、第3回社会教育委員の会議は多分研修に変わるかと思しますので、一応会議室としてはこちらをとっています。この期の最後になりますが、第4回社会教育委員の会議が、8月26日月曜日9時半から801です。期を過ぎておりますが、日程が決まっているので、9月22日日曜日は青少年のための科学の祭典が行われます。

小山田議長 ありがとうございます。一応、第1回、第2回、第4回はこの日程でということで、第3回についてはまた視察が決まったらということで、よろしく願いいたします。

では、皆様、今年度も大変お世話になり、ありがとうございます。また来年度も引き続きよろしく願いいたします。では、今日はこれで終了いたします。ありがとうございました。